

# FUKUDA REPORT

第94期  
第2四半期報告書

2020年1月1日～2020年6月30日



株式会社 **福田組**

証券コード：1899

マルチ・ステークホルダーの満足を第一に取り組みまいります。



代表取締役会長  
福田 勝之



代表取締役社長  
荒明 正紀

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて当社は、2020年6月30日をもって、第94期第2四半期（2020年1月1日～2020年6月30日）を終了しましたので、ここに当第2四半期の概況をご報告申し上げます。

当社グループは「人と自然、社会と共存できる環境づくり」を基本理念として、またフクダグループスピリット「100年先も誠実」を掲げ、当社グループの総力を結集し、誠実を貫き、大切な人たちとの強いきずなをつくりあげ、そのいのちと暮らしを守りつづけます。また、当社は「挑戦する企業体質のもと、人間と環境を大切にし、感動的価値の創造を目指す」ことを経営理念に掲げ、顧客・株主・取引先・地域社会・従業員など、すべてのステークホルダーの満足を第一とし、全社一丸となって取り組んでおります。

当第2四半期連結累計期間の連結業績は後記のとおりであります。今日のグローバルな社会では、想定外のリスクを孕んでおりますが、企業価値の向上と健全なグループ経営基盤の維持を図り、今後とも株主の皆様のご期待に沿えるようグループ一丸となって邁進する所存でございます。

株主の皆様におかれましては、今後とも何卒変わらぬご支援、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

2020年9月

財務ハイライト



## 当第2四半期累計期間の連結事業概況

▲売上高におきましては、ここまでの受注高が前年を下回ったものの、建設事業の前期繰越高が高水準であったことや工事施工が順調に進捗したこと等により、前年同四半期と比べて10.7%増の841億円余となりました。

利益面におきましては、売上高の増加や生産性向上による粗利益率の改善が寄与し、売上総利益は前年同四半期と比べて27.2%増の89億円余となり、販売費及び一般管理費はほぼ変わらなかったことから、営業利益は前年同四半期と比べて82.8%増の41億円余となりました。

営業外損益では、大きな変動が無かったことにより、経常利益は前年同四半期と比べて73.4%増の42億円余となりました。一方、投資有価証券評価損の計上や法人税等の増加等はありませんでしたが、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同四半期と比べて77.3%増の27億円余となりました。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、工程の遅れなどの業績への影響を懸念しておりましたが、感染対策を講じながら滞ることなく施工することが出来たので、現時点におきましては、その影響は軽微にとどまっております。

しかし受注面におきましては、お客様への訪問や面談の中止による発注の遅れ、また事業会社では、景気の急減速に伴う設備投資計画の見直し等が発生し、当社個別においては前年同期と比べて19.9%減となっております。

## 通期の見通し

▲わが国の経済は、世界中に拡大した新型コロナウイルス感染症が影響し、経済活動のみならず社会活動においても全般的に低迷しており、収束時期が見通せない限り、景気回復の目処がたない状況にあります。個人消費においても外出自粛や時短営業の影響、雇用所得環境の不安により大幅な落ち込みが続くものと思われま

このような経済状況を背景に、建設業におきましては、防災対策や将来に向けたインフラ老朽化対策を中心とした公共投資の増加は継続的に行われるものと期待されるものの、民間投資においては、企業の業績悪化に伴う設備投資計画の減少により、需要が限定的となり、受注競争の激化が生じることが予想されます。

また、慢性的な労働者不足による労務単価や調達が難航すると思われる海外製の資材等の価格が更に高騰することにより、建設コストが上昇することが予想されるため、生産性向上を緊急課題として諸施策に取り組んでいる状況であります。

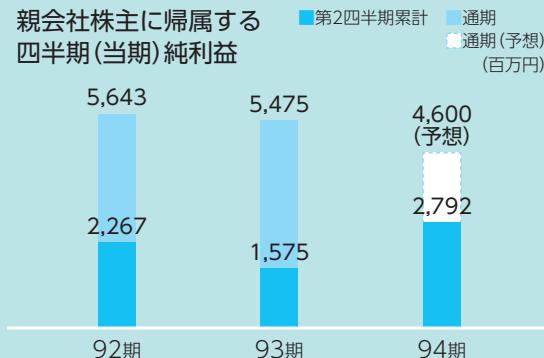
更に新型コロナウイルス感染予防のために、工事の一時中断、もしくは中止が生じることで自社の業績悪化を招く可能性も排除できない状態でもあります。

当社グループにおける収益状況は、第2四半期時点において、売上高が前年同四半期と比べて上回っており、当初計画に対する進捗率の面から見ると順調にきております。

しかし、今後も新型コロナウイルス感染症拡大に対する懸念がぬぐい去れず、消費マインドの低迷、企業活動の停滞も予想されることから、現下の受注環境が当面、継続するものと判断せざるを得ません。施工面でも工程の遅延など、工事利益の押し下げ要因を払拭しきれない状況が見込まれます。他方、当社以外の連結子会社においては、官公庁工事のウエイトが相応にある会社が多く、今のところ、甚大な影響は受けていないものの、民需を中心とした会社においては、当社同様に受注減となっている企業もあります。

このような状況から、当期の個別受注予想を920億円に引き下げ、それに従い、通期の連結業績見通しを、売上高1,760億円、営業利益68億円、経常利益70億円、親会社株主に帰属する当期純利益を46億円にそれぞれ修正することといたします。また、個別業績予想については、売上高1,100億円、営業利益46億円、経常利益51億円、当期純利益35億円とさせていただきます。

親会社株主に帰属する  
四半期(当期)純利益



受注高(単体)



レックス

## 「循環式エコクリーンブラスト工法」で 自然に優しい工事を

当社は、経年劣化により傷んだ鋼橋の塗り替え工事に「循環式エコクリーンブラスト工法」を採用しております。

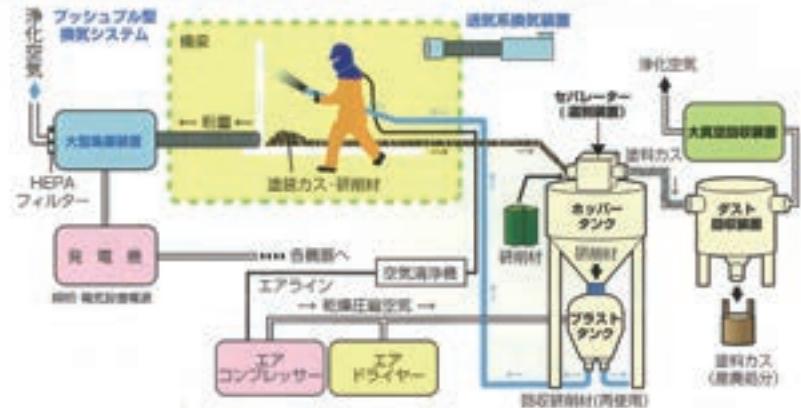
従来のエアブラスト工法では、研削材を橋梁等に吹き付け、古い塗膜を除去した後、研削材と除去した塗膜を一緒に回収・処分してきました。その手法では、産業廃棄物の排出量・処分量が膨大になり、処分費用が発生します。

しかし、「循環式エコクリーンブラスト工法」では、研削材と除去した塗膜を回収するまでのプロセスは同じですが、特殊な装置によって研削材と塗膜を分離することが可能となり、研削材を再利用することができるようになりました。

これにより、産業廃棄物の処分量が約1/50と大幅に縮減され、研削材を繰り返し使用することから地球環境にも優しい工事を行うことができました。

これからも当社は新しい技術を取り入れ、新潟県における社会インフラ設備の総合維持管理に取り組んでまいります。

循環式エコクリーンブラストシステム図



### 本工法の受賞歴

#### 平成26年度

「国土技術開発賞」地域貢献技術賞受賞

#### 平成29年度

NETIS登録 CB-100047VE (活用促進技術)

#### 平成30年度

「環境賞」環境大臣賞受賞

### 本工法を用いた当社の受賞歴

北陸地方整備局長岡国道事務所長表彰  
「H31長岡大橋塗替塗装工事」



# 「ゼロエネルギーSta.KOWA松海社員寮」 竣工

当社では、昨年の8月から今年の3月にかけて本社社員寮の移転新築を行いました。

新しい社員寮のコンセプトは、当社の環境技術を導入し「ニアリー-ZEH（ゼッチ）」規準の達成を目指すことです。

「ニアリー-ZEH」とは、消費電力の一部を再生可能エネルギーより賄い、エネルギー収支を“ゼロ”に近づけた住宅のことです。

「ニアリー-ZEH」規準の達成のため、当社が提供している「地中熱ヒートポンプ冷暖房」と「地中熱ヒートパイプ融雪」に加え、「太陽光発電パネル」と「蓄電池」を導入しました。

現在は入寮社員の引越しも済み、環境にやさしい設備の下、快適な寮生活を送っています。



名称：「ゼロエネルギーSta. KOWA松海社員寮」

構造：木造2階建  
(制震ユニット「ミライエ」導入)

寮室数：13部屋

施工：フクダハウジング株式会社(建築工事)  
株式会社興和(空調・熱源工事)

#### 【主な環境配慮設備】

地中熱ヒートポンプ冷暖房、地中熱ヒートパイプ融雪、太陽光発電パネル、蓄電池

## 導入設備の紹介

### 地中熱ヒートポンプ冷暖房システム(当社技術)

([https://www.kowa-net.co.jp/wp-content/uploads/1276/tichuunetsu\\_HP.pdf](https://www.kowa-net.co.jp/wp-content/uploads/1276/tichuunetsu_HP.pdf))

年間を通してほぼ一定の温度を保っている地中熱をくみ上げて(夏は冷熱・冬は温熱)冷暖房に利用することで、消費電力の削減が可能です。

太陽光発電パネルと組み合わせて、従来比50%の電気代削減を目指しています。

今回、「地中熱」を採熱するための井戸「ボアホール」を当社自ら掘削しました。

当社保有の高速振動掘削機「ソニックドリル」を使用し、地下100mにも及ぶ直径約18センチの「ボアホール」2本をわずか4日間で掘削しました。

ソニックドリルによる  
ボアホール掘削



空調室外機(地中熱ヒートポンプ)



### 地中熱ヒートパイプ融雪システム(当社技術)

([https://www.kowa-net.co.jp/wp-content/uploads/1276/03hpi\\_dL\\_A3\\_2012.pdf](https://www.kowa-net.co.jp/wp-content/uploads/1276/03hpi_dL_A3_2012.pdf))

冬季、外気に対して相対的に高くなる地中熱を地表に伝えることで融雪を行います。作動液が自ら循環して舗装を温めるため、燃料費等のランニングコストゼロを実現しました。



地中熱ヒートパイプ融雪(玄関前)

# 連結財務諸表

## ● 連結貸借対照表 (単位: 百万円/百万円未満切捨)

科目	当第2四半期連結会計期間末 (2020.6.30現在)	前連結会計年度末 (2019.12.31現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産	99,708	104,203
固定資産	35,536	35,343
資産合計	135,244	139,546
<b>負債の部</b>		
流動負債	59,153	62,880
固定負債	7,931	8,531
負債合計	67,085	71,412
<b>純資産の部</b>		
株主資本	66,960	66,697
その他の包括利益累計額	596	840
その他有価証券評価差額金	598	853
土地再評価差額金	△75	△75
退職給付に係る調整累計額	73	63
非支配株主持分	602	596
純資産合計	68,159	68,134
負債・純資産合計	135,244	139,546

### ▶ ワンポイント

#### 【連結貸借対照表】

資産の部については、月次の下請負代金等の支払に備えるために現金預金を増やしているものの、前期から繰り越されていた大型工事等が概ね完成したことによる、売掛債権の回収が順調に進んだことから受取手形・完成工事未収入金等が大幅に減少したため、前連結会計年度末に比べ総資産は43億円余減少し、1,352億円余となりました。

負債については、繰越工事に対する工事代金の回収が進んだことによる未成工事受入金等の増加が生じたものの、返済による借入金残高の減少が大きかったことにより、前連結会計年度末に比べ43億円余減少の670億円余となりました。

純資産については、自己株式の取得が生じたものの、親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したことにより利益剰余金が増加したため、前連結会計年度末に比べて2千万円余増加し、681億円余となりました。

## ● 連結キャッシュ・フロー計算書 (単位: 百万円/百万円未満切捨)

科目	当第2四半期連結累計期間 (2020.1.1~6.30)	前第2四半期連結累計期間 (2019.1.1~6.30)
営業活動によるキャッシュ・フロー	22,998	18,244
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,019	△653
財務活動によるキャッシュ・フロー	△8,355	△2,180
現金及び現金同等物の増減額	13,624	15,410
現金及び現金同等物の期首残高	23,171	22,858
現金及び現金同等物の四半期末残高	36,795	38,268

## ● 連結損益計算書 (単位: 百万円/百万円未満切捨)

科目	当第2四半期連結累計期間 (2020.1.1~6.30)	前第2四半期連結累計期間 (2019.1.1~6.30)
売上高	84,158	76,043
売上原価	75,237	69,031
売上総利益	8,921	7,012
販売費及び一般管理費	4,743	4,726
営業利益	4,177	2,285
営業外収益	184	237
営業外費用	99	63
経常利益	4,263	2,459
特別利益	85	122
特別損失	207	9
税金等調整前四半期純利益	4,141	2,572
法人税、住民税及び事業税	1,540	1,135
法人税等調整額	△218	△211
四半期純利益	2,819	1,648
非支配株主に帰属する四半期純利益	27	73
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,792	1,575

#### 【連結キャッシュ・フロー計算書】

営業活動によるキャッシュ・フローは、前年は大きな影響を与えた未成工事受入金の増加額が、当期においては大きな減少となったものの、売上債権の減少額や仕入債務の減少額等による収入面が大きかったことにより、229億円余の収入超過となりました。(前年同四半期は、182億円余の収入超過)

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の売却収入が少なかったことにより、10億円余の支出超過となりました。(前年同四半期は、6億円余の支出超過)

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済による減少額が大きかったことや自己株式の取得により、83億円余の支出超過となりました。(前年同四半期は、21億円余の支出超過)

## ■ 会社の概況 (2020年6月30日現在)

創 業 1902年1月  
 設 立 1927年12月  
 資 本 金 5,158,408,496円  
 従 業 員 数 919名  
 連 結 子 会 社 17社 (福田道路(株)他)

### 主要な事業所 ●本社

新潟市中央区一番堀通町3番地10  
 電話 025-266-9111 (大代表)

### ●本店・支店

新潟本店(新潟市中央区)  
 東京本店(東京都千代田区)  
 東北支店(仙台市青葉区)  
 名古屋支店(名古屋市中区)  
 大阪支店(大阪市北区)  
 九州支店(福岡市博多区)  
 中越支店(新潟県長岡市)  
 北海道支店(札幌市中央区)

### ●営業所

盛岡、千葉、横浜、村上、上越、広島ほか  
 6営業所

### 主要な子会社

福田道路(株)  
 (株)興和  
 フクダハウジング(株)  
 (株)レックス  
 福田アセット&サービス(株)  
 (株)新潟造園土木  
 福田リニューアル(株)  
 北日本建材リース(株)  
 (株)リアス

## ■ 役員 (2020年6月30日現在)

代表取締役会長 執行役員会長	福田 勝之	執行役員	尾崎 清美
代表取締役社長 執行役員社長	荒明 正紀	執行役員	追木 博幸
代表取締役副社長 執行役員副社長	石川 渡	執行役員	山本 幹夫
取締役員 執行役員	相馬 良一	執行役員	清水 浩
取締役員 執行役員	山本 武志	執行役員	湯上 聡
取締役員 執行役員	大塚 進一	執行役員	田宮 強志
取締役員 執行役員	齋藤 秀明	執行役員	今野 和則
取締役員 執行役員	矢澤 健一	常勤監査役	岩崎 勝彦
取締役員 執行役員	中田 義直	常勤監査役	八鍬 耕一
執行役員副社長	藤山 秀章	監査役	高桑 正一
執行役員	山賀 豊	監査役	砂田 徹也
執行役員	砂田 修一	監査役	宮島 道明

注1. 取締役 矢澤健一、同 中田義直は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。  
 2. 監査役 砂田徹也、同 宮島道明は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

## ■ 株式の状況 (2020年6月30日現在)

発行可能株式総数 20,000,000株  
 発行済株式の総数(自己株式を除く) 8,584,796株  
 株主数 4,606名  
 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
(公財)福田育英会	688	8.0
(株)第四銀行	439	5.1
福田 直美	431	5.0
日本マスタートラスト信託銀行(株)	407	4.7
小沢 和子	321	3.7

(注) 持株比率は自己株式(403,315株)を控除して計算しております。なお、当該自己株式数は、「株式給付信託(J-ESOP)」および「役員株式給付信託(BBT)」制度の信託財産として、資産管理サービス信託銀行(株)(信託E口)が保有する当社株式(66,500株)は含まれておりません。

## 株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで

定時株主総会 3月

基準日 定時株主総会 12月31日  
期末配当金 12月31日  
中間配当金 6月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
特別口座の口座管理機関

### 【連絡先】

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
東京都府中市日鋼町1-1  
TEL 0120-232-711 (通話料無料)

### 【送付先】

〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号

単元株式数 100株

上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部

公告の方法 電子公告の方法により行います。

ただし、やむを得ない事由により電子公告による  
ことができない場合は、日本経済新聞に掲載いた  
します。

公告掲載URL <https://www.fkd.co.jp/>

### 【ご注意】

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせ下さい。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意下さい。なお、未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行の本支店でお支払いいたします。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。

## 株主優待制度

当社では、日頃の株主様の御支援に感謝申し上げるとともに、弊社株式を末永く保有していただくことを目的に、株主優待制度を導入しております。

保有株式数	優待贈呈内容	贈呈実施基準
200株以上	クオカード 2,000円分	毎年12月31日現在の株主名簿に記載または記録された内容に応じ贈呈
200株以上	クオカード 5,000円分	1年以上継続保有(株主名簿に3回以上記載または記録)された内容に応じ贈呈

贈呈時期 毎年3月下旬発送予定

## ●株主手続に関するFAQ

### 1 特別口座では株式の売買を行うことができないので、特別口座にある株式を証券会社の口座に振替えたいのですが…

あらかじめ、証券会社に口座を開設した後で、当社の特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行までお申し出下さい。単元未満株式についても振替が可能です。振替にかかる手数料はございません。

### 2 単元未満株式を処分したいのですが…

当社では、単元未満株式の買取・買増請求制度を採用しておりますので、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行までお申し出下さい。

※すでに、単元未満株式を特別口座から証券会社の口座に振替えられた場合は、振替先の証券会社にお申し出下さい。

### 3 各種手続の申し出先を知りたいのですが…

①証券会社の口座にある株式  
▶お取引先の証券会社

②特別口座にある株式  
▶三菱UFJ信託銀行  
(※右記までお問い合わせ下さい。)

〒137-8081  
新東京郵便局私書箱第29号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
☎ 0120-232-711  
<https://www.tr.mufg.jp/dai kou/>



# FUKUDA

本社 / 新潟市中央区一番堀通町3番地10  
電話 025-266-9111 (大代表)